

# 少年少女

## 夢を追う夏！

夏休み、それは暑くて長いワクワクするような若者のシーズン。海や川に出かける者、スポーツに打ち込む者、塾通いに精出す者、家事手伝いに勤む者などさまざま。

そんな若者の夏の1コマを追ってみよう。

高ヶ池中学校の「体験学習ジョイント・プロジェクト」には感心した。自らの将来に準備を合わせ、中学時代のこの時期に「目指す職業を体験する試み」には価値があった。

獣医を目指す者あり。美容院、花屋の経営を希望する者あり。消防士や保母として、また福祉施設で働きたいとする者あり。板前になり厨房に入りたいことを望む者、さらには食品の製造や販売に関する会社で働くことを欲する者ありとさまざま。体験学習の現場にはそれぞれ真摯な少年少女の姿があった。

そのまなざしの中には自信に満ちた？ あるいは確信を持った？ そんな一種の風格さえ感じさせるものがあった。



ベテラン保育士と交流して保育体験。何だかんだで園児の要求に対応、何でも聞いてくれるお姉さんに子どもたちは大喜び。

長岡西部保育所ほか2保育所



大人になったら消防士。体力と気力・知力そしてチームワークが大切だと学びました。少し勉強も心配？

市消防署



いきなり食器洗い。板前として働く前にまず清潔整頓、料理の基本を体験しました。

グレース浜すし（大浦甲）

### 夢と生きがいを与えるジョイント・ジョブ



高ヶ池中学校校長 山崎 春男

ずいぶん昔から口学校の進路指導のあり方として、高校に関する情報を生徒に提供するだけでなく、その先にある生活を支える生きがいを持つ「仕事」に関する興味・関心を培っていく必要がある、と言われ続けてきました。

本校は、中学1年時に仕事調べの学習内容がありますが、それを補強するため、1996年度から2、3年生に仕事体験学習を夏休みに取り入れしました。ねらいは、①働く人たちから苦労・生きがい・工夫・気配りなどを学び取る ②中学生を地域の中で育てていただく なのです。

この夏には26の受け入れ先へ、延べ100人の生徒がお世話になりました。趣意をご理解いただき、受け入れていただいた各企業・自営業・官公署・福祉医療施設の方々には、厚く御礼申し上げます。

### コロナ美容室

（後免町）



散歩させるのも大切な仕事。入院もあるし、ケガ・病気・老衰など心配がいっぱい。ペットを飼う人の気持ちが分かりました。

佐野獣医科病院（篠原）



人が美しくなり喜んでくれる美容師でも、厳しい立ち仕事を体験。

恒例になった市商工会主催の小学生の企業訪問（写真11右上）。ことしも市内外の企業などを見学しました。暑い中、行われた市子ども会連合会のソフト・ドッチボール大会（写真11右下）。試合も応援も、一生懸命頑張りました。



## 元気に体験：エトセトラ

そして、親子で過ごし、親子で楽しんだ夏休み。夏休み子ども教室の星の観察（写真12左）では、宇宙の神秘にふれ、望遠鏡で覗いた月のクレーターに驚きました。親子クッキング教室（写真12右下）では、上手に包丁を使って「変わりおむすび」などに挑戦しました。



清和女子中高등학교主催の子ども英語教室（写真12右）では、ゲームやクイズをおして楽しく英語を学びました。

この夏の体験で、未来の姿が見えてきた少年少女も多いことと思う。目指すその夢や希望をかなえるためにこそ、勉強にますます力が入ることだろう。「何かを言って教えるよりも、経験させてみる…」そんな教師の気持ちもこちら側に伝わってきた。子どもたちにその気持ちが伝わらないはずがない。ガンバレ先生！そして子どもたち。



美しく店頭並べた商品。売れれば当然補給する。毎日新鮮な物を出し続けることは大変だ。でも売って、けっこうおもしろそう。

南国スーパー パステ店  
(駅前町)



人前でもっともに作業に精を出す。コツコツと続けることが福祉の向上につながることを教わりました。

香南くろしお園  
分場なんこく  
(久礼田)



牛の飼育から始まって、飲めるようになるまでたくさんの方が細心の注意を払って作る牛乳。工場は機械化されてすごい迫力。

ひまわり乳業株式会社 (物部)



花の命は短くて…。とってもむづかしい仕事。でも人の気持ちを癒してくれる花。楽しさをできるだけ長く保つ、秘密のワザをしっかりと教わりました。

フローリスト・ルミ  
(後免町)



体験学習  
北陵中学校編



朝日新聞本社



情報社会への対応は、次世代の重要テーマと位置付け、インターネットワークなどで全国に発信し「全国の北陵中サミットG7」の開催などを計画、推進している同校は、生徒会活動を新聞にマトメられればと、この夏、朝日新聞社主催の夏休み中学生新聞全国コンクールに参加しました。

参加校の生徒会代表2人が朝日新聞大阪本社に招かれ、自校の新聞を作成しその出来栄を競うもので、北陵中からは楊晴さんと小松美保さんが出席しました。2人は、朝日新聞がどういうふうに出ていくのか見学したあと、ベテラン社員の指導を受けながら最終的には、すべて2人の力で「南国北陵新聞」を完成させました。幸い、同校には比較的個性的な事業実績が多く、大阪に行けなかった部員などとともに集めた材料も豊富で、編集にも力が入り自信作で勝負できたとのことです（結果は9月中に出るそうです）。